

第25回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

村の誇りを胸に
タスキをつないだ95・1キロ

総合32位
村の部6位

第二十五回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）は十一月十七日、白河市陸上競技場をスタート、県庁前をゴールとする十六区間、九十五・一キロのコースで開催され、鮫川村チームは総合三十二位と健闘しました。

今大会は、史上初となる県内全市町村が参加し、五十三チームがタスキをつなぎました。鮫川村チームは、中学生の若い力を中心とし、それを経験豊富な高校生と一般の選手がまとめるというチームで挑みました。大会当日は、選

手一人一人がベストを尽くし、村の誇りを胸にタスキをつなぎました。また、三区を走った目黒司さん（鮫川中三年）、七区の須藤康太さん（同三年）、九区の岡部花歩さん（同二年）が村の部区間賞を獲得し、中学生の活躍が光りました。

区間賞



目黒 司さん（写真左）
ふくしま駅伝で走るのは今回で3回目です。これまでは緊張しながら走っていましたが、今年は3年生ということもあり、「チームに貢献しよう」という思いで落ち着いて走ることができました。

岡部花歩さん（写真中央）
昨年は補欠だったので初めて走りました。当日は、練習の成果を出すことができました。区間賞を獲得とは思っていなかったもので、うれしいです。来年もふくしま駅伝に出場したいです。

須藤康太さん（写真右）
当日は治道の応援のおかげで緊張せず、気持ち良く走ることができました。走る前から区間賞を狙っていたのでうれしいです。また、総合順位で5位になれたことに驚きました。



団結し懸命にタスキをつないだ鮫川村チーム



「地域に残る給食」で
決勝大会入賞

地産地消給食のおいしさや栄養価などを競う「第八回全国学校給食甲子園」は十二月七日、八日、東京都内で行われ、北海道・東北ブロック代表として二年連続四度目の決勝大会出場を果たした鮫川村学校給食センターは、調理器具の有効活用によって、協賛企業賞「タニコー賞」を受賞しました。

同センターは、「地域に残る給食」をテーマに、衣に砕いた大豆を混ぜた「まめみそカツ」、村アイディア料理コンテスト入賞作品の「彩りすいとん」、郷土料理の「じゅうねん

あえ」など、鮫川村の特色を出した献立で大会に臨みました。決勝大会には、全国から二千二百六十六の応募があった中から書類審査を通過した十二施設が出場。制限時間一時間の中で調理をし、栄養バランスや調理技術、衛生管理、地場産物の活用などの観点で審査が行われました。

大会に出場した芳賀公美栄養技師と鈴木ひろ子主任調理員は、計十三回の練習を行い、衛生面の確認や作業手順、器材の見直しを重ねてきました。そのようにして挑んだ大会当日を振り返り、「これ

まで四回出場していますが、それでも緊張しました。調理技術も厳しく審査されていると感じ、さらに細かいところまで神経を使わなければいけないと思いました」と芳賀栄養技師は話しました。また、鈴木主任調理員は「芳賀さんが地元の食材にこだわった献立で大会への出場権を得て、鮫川村を広くアピールしてくれていることに感謝しています」と話しました。今後、この経験を生かして献立作成や衛生管理だけでなく、地元食材のおいしさを最大限に生かした給食を子どもたちに提供できるように、調理技術も向上させたいと意気込んでいます。



1. 第8回全国学校給食甲子園に応募した献立
2. 「タニコー賞」の盾を持つ芳賀公美栄養技師（写真右）と鈴木ひろ子主任調理員（写真左）
3. 決勝大会で調理をする2人

【協賛企業賞】
タニコー賞

第8回全国学校給食甲子園

鮫川村の特色出した献立で
「タニコー賞」を受賞